

ゆいちゃんはシリタガリゾ!! 仏さまは眠っているの? 星木レイ



浄土宗コドモタイムズ

第56号

発行 浄土宗児童教化連盟

発行人 三宅 明信
 〒833-0013 筑後市北長田706-2
 林鐘院内
 TEL 0942-52-5524
 FAX 0942-54-1189

だんご虫

詩・絵 今井 康隆

だんご虫ころころ
 ころがって
 ポクのにが虫
 ころがった
 だんご虫ころころ
 ころがって
 ボクのかなしみ
 ころがった
 だんご虫ころころ
 ころがして
 友だちよんで
 大わらい
 ころころ ころころ
 みんなでころがして
 大わらい
 だんご虫ころころ
 友だちふえたよ



ぶつ きょう ぶつ しょく ぶつ 仏教と植物

「マンゴー」

みなさんはマンゴーは好きですか。甘くておいしいですね。そのまま食べてもジュースで飲んでもとても美味ですね。

マンゴーは紀元前二千年〜三千年ころにはすでにインドで栽培されていたそうです。マンゴーは菴羅（菴沒羅・菴摩羅とも）と書きます。これは古代インドの言葉アームラを漢字に訳したものです。マンゴーはインドでは果実の王様といわれます。仏さまにお供えする果物として、またおめでたい席には食卓に飾られる果実です。

お釈迦さまと弟子たちが修行中に、よくマンゴー林に滞在しています。暑い時期などはマンゴーの木陰にいと涼しく過ごしやすかったものと思われます。また実際にお釈迦さまがマンゴーが大好きだったのかも知れませぬね。そん

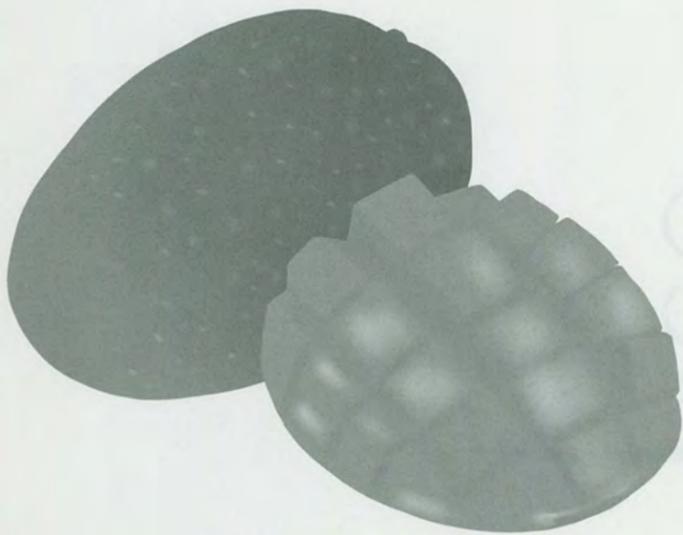
なマンゴーの木を弟子たちが寄付したことも知られています。

お経にもマンゴーはたびたび出てきます。マンゴーはまだ生なのか、熟れているのか、外見からはわかりにくいところから、人は外見はき然としているけれども、心の中は欲望にあふれていること、あるいは反対に外見は乱暴に見えて心はけがれがなく清らかなことに例えられます。

またマンゴーは花はたくさん咲くけれども実を結ぶものは少ないそうで、このことから人間はさとりを求める心を起こす者は多いけれども、さとりを得る者は少ないということにも例えられます。

このようにマンゴーはお釈迦さまにとって、

とても身近な果実でした。今度マンゴーを食べたりする時は、お釈迦さまのことを思い出してください。



質問箱

質問

お仏壇のろうソクの火を口で吹き消してはだめなのですか。誕生日ケーキのろうソクは口で消しますよね。

(長野 小三 女子)

答え

おやおや、お仏壇のろうソクの火を口で吹き消しているのですか。

仏教では息は不浄といつて清らかでないものとされます。人は飲み食いする時には口から入れます。そうすると口の中がよごれてきます。そんな口からお仏壇におまつりする仏さまに向つて息をはくことはとても失礼にあたるのです。みなさんも他人の息を吹きかけられるのはうれしくはありませんね。

また手であおいで消すのもよくありません。仏さまにささげる火は必ずろうソク消しで消してくださいね。

「昔の子どもの遊び」

みなさんはどんな遊びをしますか。子どもの遊びは時代によって変わってきます。昔はどんな遊びがあったのでしょうか。今では考えられないものもあります。

これから平安時代から明治時代まで、時代を追って見ていきましょう。

鎌倉時代までの子どもの遊び
竹馬：竹馬は今でも遊ぶことがありますがね。二本の棒それぞれに足を置くところ（足がかり）をつけて乗って歩くものです。

でも昔の竹馬は次の絵のように、葉のついた生の竹にまたがって遊びました。法然上人も子どものころに、こんな竹馬遊びをされていたようです。今のような二本の棒になったのは江戸時代のころといわれます。



めかこう：指先で下まぶたを引いて、目の内がわの赤い部分を見せることです。今でいう「あかんべ」のことです。「いやだよ」という言葉の代りに人をからかう意味といえます。平安時代の子どもたちにはこんな遊びがあったそうです。どういう具合に遊ぶのかよくわかりませんが、目を赤目にして子どもをおどしたという記録が残っています。時の上皇がご存じなくらい広まっていたのでしよう。

こまつぶり：現在のこま（独楽）のことです。



ひな遊び

これも仏教の言葉だよ!

「世の中」



「世の中」は仏教の言葉の「世間」から来ています。世は「よ」、間を「なか」と読んで「世の中」という言葉ができました。現世またはこの世という言い方もあります。

世間とはみんなが生活している場のこととて、仏教では迷いの世界のことをいいます。この世の中にはたくさんの方があふれて、一体何が良いのか正しいのかわからないことがあります。またいつの時代にあっても争いごとがなくなることはありません。

そういう世の中にあって、おたがいにゆずり合い、助け合い、許し合って生きていくことが大切ではないでしょうか。

ちがいがし

みんなよう
考えよう



絵：岡本こずえ



前回の答え

右の絵と左の絵の違いを5つ見つけてください。
ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送ります。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。
しめきり10月15日です。

送り先

〒833-0013

筑後市北長田706-2

林鐘院内

浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524

FAX 0942-541189

お知らせ

◆みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中でのこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品も待っています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◆送り先は 〒833-0013 筑後市北長田706-2 林鐘院内 浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524 FAX 0942-541189

感想もいっしょに書いてくださいね。

ぶくぶく編集室



暦には二十四節気といって、一年を二十四等分しそれぞれの季節を表す名前がつけられています。二十四節気には春分・秋分や、立春・立夏・立秋・立冬、夏至・冬至などがあります。しかし子供の日や文化の日などの国民の祝日のように、毎年同じ日にちになるとは限りません。

たとえば立春(節分の次の日)は二月四日になることが多いですが、近年のことというとうと、一九八五年から二〇二〇年までのことです。二〇二一年はおよそ二〇二〇年ぶりに二月三日が立春になります。この先二〇五六年までは四年に一回二月三日が立春になるそうです。なぜこのように変わるのかですが、太陽の周期は約365.24218944日で、単純に一年を365日とすると四年でほぼ一日のずれが起こるからです。